



Title	スペイン語学教育・研究におけるWWWサーバの役割
Author(s)	出口, 厚実
Citation	Estudios Hispánicos. 1997, 21, p. 31-44
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/93828
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

スペイン語学教育・研究における WWWサーバの役割

出 口 厚 実

0.

インターネットが国境を意識しない広範な情報交換を可能にすることから、外国語教育に大いに役立つであろうという漠然とした期待が一般にもたれている。しかし、英語以外の諸言語で提供されるさまざまな情報を利用している学習者の数はわが国ではまだごく限られている。興味をそそられるが、ネットワークの環境を整える煩わしさからか、二の足を踏む人や模様眺めの人々が多数控えているので、今後、増加してゆくのは確実であろう。この歩みが意外に遅く思われる背後には、外国語による資源にインターネットを通じて接近するノウハウそのものが、十分に周知されていないという現状がある。本学のような外国地域・外国語研究を専攻分野とする教育機関でさえ、このような実用的な技術を組織的にカリキュラム化しようとする態勢は取られていないのであるから、コンピュータジャーナリズムや一般のネットワークの世界で、例えば、スペイン語使用地域の文化や経済・政治動向に関心を抱いている人がスペイン語で、直接、情報源にアクセスするには、どのようにすればよいかというような入門的ガイダンスが不足する当然である。

前稿（出口 1996）で、個別言語に関連する、専門的で細別化された、より多様な情報の交流を推し進めるために、もっと多数の情報発信者の出現が必要であるという観点から、パソコン使用の簡易 WWW サーバを立ち上げる可能性を確かめようとして、いくつかのハード・ソフト上の具体的な実験を試みその結果を報告した。

この紙面では、むしろ、語学教育上の効果を中心に据えながら、筆者自

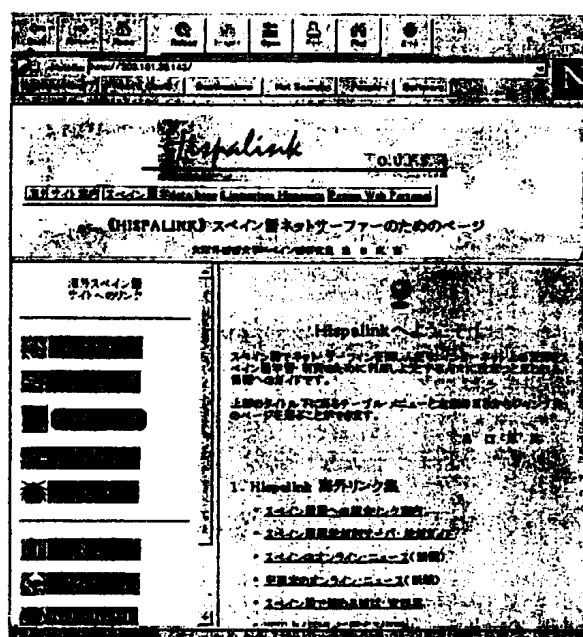
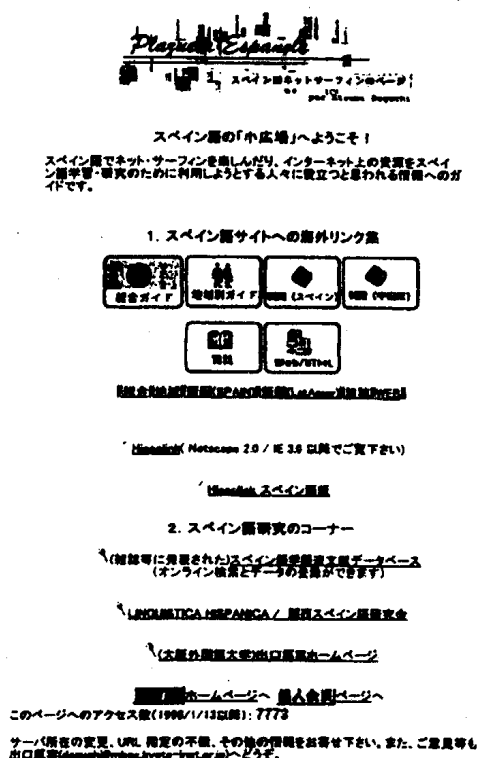
身の WWW サイトの構成とその運用面についての経験を紹介し、今後進めべき方針を探りたい。後半では、特に、研究室の小規模な WWW サーバが発揮し得る特徴や有益性がどの程度なのか、その人的コストとメリットのバランスを検討する。

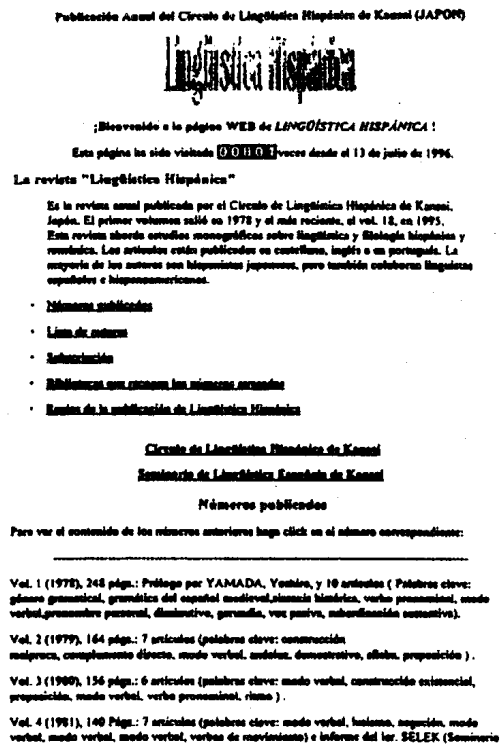
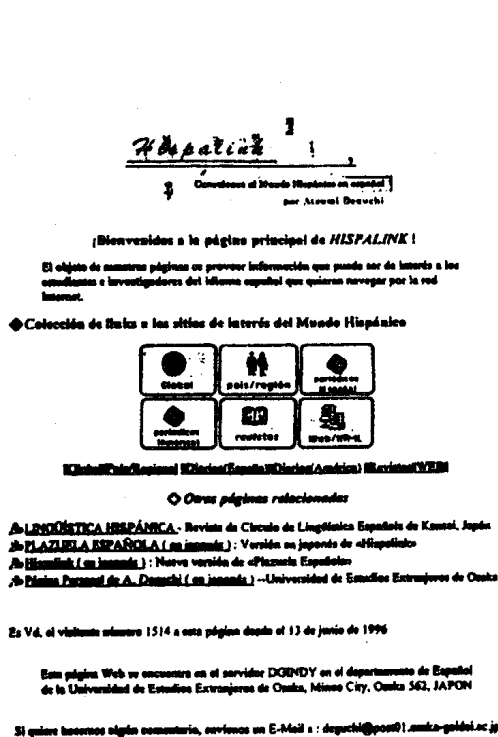
1.

本学の語学教育プログラムの全体を見通した展望の中でのインターネットの位置づけや、専攻語としてのスペイン語および南欧地域文化専攻の学習プランにどのようにこの情報メディアを組み入れるかの問題は、将来、いずれ議論を深めなければならない課題であるが、ここで扱うのは、それらに先行する試行的な、しかも個人の自発と負担において可能な、実験の域を出ない範囲の、従って計画性にも組織性に欠ける試みであることを初めに明らかにしておく。

現在（1997年3月）、筆者が公開している WWW ページは次の5系統に分けることができる。それらへ分岐するメニューページとして、本学の教官一覧ページのホームページ http://www.osaka-gaidai.ac.jp/~deguchi/deguchi_hp.htmlを足がかりにすることもできる。(4)の一部分には授業の受講生自身用に向けられたスペースも含まれているが、それ以外はコンテ

【サイト 1,2,3,6の各タイトルページ】





ンツもすべて筆者が作成・更新している。さらに、自分自身がメンバーでもある関西スペイン語研究会及びその機関誌“Lingüística Hispánica”のサイトは公開情報のHTML化とメンテナンスを担当しているので、ここに含めてあげておく

- | 名 称 | 設置サーバ |
|---|------------------------------|
| 1. Plazuela Española(スペイン語の小広場) | 京都インターネット
(第3セクターのプロバイダー) |
| http://web.kyoto-inet.or.jp/people/deguchi/ | |
| 2. HISPALINK | 研究室 dgindy |
| http://203.181.30.143/index.shtml | |
| 3. HISPALINK スペイン語版 | 研究室 dgindy |
| http://203.181.30.143/hislinks/hispalink.shtml | |
| 4. スペイン語学演習・講義 | 大阪外大 serv01 |
| http://www.osaka-gaidai.ac.jp/~deguchi/spsemi/spsemi.html | |
| 5. スペイン語学関連文献データベース | 研究室 dgindy |
| http://203.181.30.143/spgobnk/spbunk01.html | |
| 6. Lingüística Hispánica | 研究室 dgindy |
| http://203.181.30.143/linghis/linghis.html | |

ホームページ (1) (4)については出口(1996)でも簡単に言及しているが、その後の変化を加えて紹介しておく。『Plazuela Española』はいわゆる Navigator リンク集でスペイン語でネットサーフィンを始める人々の最初の出発基地として役立つことを期待して、最初に開設したページである。1995 年の 12 月にプロバイダーの京都 Internetwork に加入したきっかけは、当時、本学で WWW サーバが立ち上げられておらず、個人ページをもつことができなかったことと、やはり自宅のパソコンから Internet へアクセスしたいという理由からであった。会員に付加料金なしで開放されるホームページのスペースは 500 Kbyte という狭いもので、これは画像ファイルを多用しない実用的なサイトを設営するのに何とか間に合うぎりぎりの値である。

このサイトは「総合」、「地域」、「新聞 (スペイン)」、「新聞 (中南米)」、「雑誌」、「WEB (HTML)」の 6 つのセクションに分類され、それぞれの項目中でも、さらに 2, 3 の下位区分を設けて、リンク先をリストアップしている。「総合」の場合であれば、「スペイン語による総合検索」と「スペイン・中南米情報」の 2 つに分割している。また、『新聞 (スペイン)』『雑誌』のページには各 URL に 1 行程度の簡単な日本語のコメントを付している。ハイパーリンクのアイテムすべてに解説やメモが付けられていると、初めてリンクをたどろうとするユーザにとって非常に有益なのであるが、リンク先ページの概要を簡潔に紹介するのは、単に玄関ページを一瞥しただけでは不可能で、内容検討のためのかなりの時間を要するために、残念ながら部分的にしか実現できないでいる。このホームページを開設した当時に比べれば、同様なスペイン語圏に対するリンクガイドを発信する海外サイトは急増した。従って『Plazuela Española』の存在理由が減少したことは否定できない。国内では、まだ、この種の情報を提供するページが現れないので、しばらくの間続けてようと思っている。とりわけ、授業などでスペイン語インターネットの入門用教材の一部に使うという目的には十分役立つはずである。最新のアップデート(1997.2.10)によれば、上記 6 セクションにリンクされている海外ホームページの数は、それぞれ 29,39,29,99,48,14 である。

これらのリンクページは限られたジャンルに属するものであるが、一般ユーザ向けの網羅的なスペインや中南米のサーバディレクトリを参照する

のとは違った便利さを追求している。ただし、担当演習・講義の専攻分野がスペイン言語語学であることから、その個人的な指向を優先させている。あくまで、“スペイン語で提供される”情報資源への案内を目指しているので、広く一般の人々がスペインや中南米に関連して求めるような、“日本語による”観光情報や、グルメ案内、娯楽・趣味案内のページではない。別領域の教育・学習目的には、また、それぞれに重点の異なったガイドページが制作されるべきであろう。

1996年1月になって、本学のWWW Serverの実験ページが開始されたのを機に、研究室のパソコンサーバ上でテストしていた（cf.出口1996）『スペイン語学演習・講義』及び『スペイン語学関連文献目録』のホームページを直ちにLUNA1のCern WWWサーバに移設した。前者は95-96年度の専攻授業科目のゼミ及びスペイン語学講義（教科教育法を兼ねる）に関連する諸教材を集めたものである。スペイン語学及び言語学関連サイトへのリンク集も含んでいるが、『Plazuela Española』と異なり、ここには国内の情報サイトも記載している。これらのデータは96年3月に、大阪外大WWWサーバの正式発足とともにpost01の教官個人領域へ移動した。『スペイン語学演習・講義』の拡張として、96年秋には<受講生のページ>を新設した。そして、当年度卒業予定者の昼間主（第1部）6名、夜間主（第2部）9名と大学院生5名の各受講生が、卒業論文の概要あるいは研究テーマの紹介をするページを作成し公開しはじめている。卒業論文を準備する学生の中に、テーマ選定に悩むものも少なくなく、これまでの卒業生の論題や論文制作過程について、詳しい情報を求める声があることからこの企画を思いついたのである。

『スペイン語学関連文献目録』は国内の雑誌・紀要等に発表されたスペイン語学に関する学術論文・研究ノートを30の主題別に分類したリスト形式の書誌情報であった。このデータはWWWページとして公開する目的で新たに編集したのでなく、別の形態で前バージョンを配布していたものであるが、html化するのに最も時間と労力を要した部分である。総データ数は約1,000レコードであり、データベースとしては決して大きなサイズではないが、テーマごとのページ単位に分割してそれぞれを連携してリンク付けをするのにかなり手間取った。問題は、しかし、新規データの追加の際に行わなければならない分類認定と追記の作業量の増加であった。初期

全体データの再構成と html 書式への整形は awk などのテキストツールを利用して比較的容易に済ませることができたが、新規追加分は各セクションごとに手作業によらざるを得ず、これを個別にサーバへ転送する手間も予想していた以上の煩瑣さをもたらした。

一方、目録を参照する利用者の側からみると、この公開形態ではキーワード検索がサポートされないという根本的な不便さが感じられたはずである。そこで、簡便な検索システムを導入して、ブラウザの画面から検索キーワードを入力すれば、サーバ側がマスターファイルを調べ、合致するレコードのみを抽出して、返送するように改めるのが望ましいと考えた。この方式であれば、データの追加は格段に容易になり、適当な分類コードさえ割り振れば、次々にファイルの後部にアペンドするだけで済む。ただし、WWW でこのようなデータ処理をするためにはサーバで CGI の利用が不可欠である。本学 WWW サーバではこれが許可されていなかったため、研究室の PC に導入した Linux 上 (Cf. 出口 1995, 1996) で稼働する NCSA httpd へこのページを移行させようと検討を始めたころ、幸い、平成 7 年度一般設備費として要求していた研究室用ワークステーションの購入予算が認められた。

2. 新ホスト上での WWW サイト

WS の機種選定では、諸外国語への対応の柔軟性のほか、インターネットサーバとして個人で保守しやすいか、またそのためのソフトウェア群のサポートなどを主に考慮した。Netscape Commercial Server 及び Web Contents 作成のためのいくつかのツールをパッケージ化した WebForce のバンドルされた Indy RS4600PC(133 MHZ) の最下位モデルに落ち着いたが、それほど多数のアクセスをさばく必要性はないので、目下の用途には能力的に十分であると思われる。しかし、増設後の現状で 2 Gbyte のハードディスク容量は不足気味で、近い将来に対策を迫られるだろう。

設置後のハードの稼働はほぼ順調で、4 ヶ月後に CD ROM 周りの SCSI バスに障害が発生したため、motherboard の交換が行われた以外は、大学構内の一斉停電と、昨年末の IP アドレス再編の LAN 停止による一時的な中断を除き、連続運転している。

新しく導入されたホスト (以下 dgindy) に、『Plazuela Española』を移設

するか、そのミラーサイトにする案も浮かんだが、インタフェースを多少改善した別立ての Web サイトを新設することにした。ただし、データは双方でなるべく共通のものを利用することで省力化をもくろんだ。外大 LAN から京都 Internetwork の会員ページにある『Plazuela Española』への接続が極端に低速で、授業時間内にコンピュータ演習室や共同研究室から参照しようとする、転送速度の遅さによる非効率を越して、事実上、不可能になる場合が多いことが判明していたので、この対策としても同等な情報を学内サーバに置き、よりスピーディに見られるようにする必要性を感じていた。また、同プロバイダーが提供する個人ホームページ許容量の上限をほぼ使い切っている、内容を拡充するのが困難な状況にもあった。

dgindy に設けた新たなサイトは『Hispalink』という名称を与えた。上部の表題部のほか、セクションを選択するウィンドウを左側に固定しておき、分類された下層のリンク情報ファイルを表示する中心柱の窓を右側に広く確保する 3 分割されたフレームを採用した。常時、他の関連サイトと相互間で行き来しやすいように、『スペイン語学文献データベース』、『Plazuela Española』、『外大ホームページ』、『Lingüística Hispánica』へのリンク・ボタンをタイトル画面に配置した。大学の内部で、主として、学生諸君の利用を促すというねらい以外にも、新しいバージョンのブラウザの使用者には、その利便性を活用できるように、という点も考慮した。すなわち、スタート時では Netscape 2.0（または、Internet Explorer 3.0）以降を導入しているサーファーマは少なかった、その人々には『Plazuela Española』を、より最新のブラウザを使う人々には『Hispalink』を、と振り分ける選択肢も無駄ではないと思われた。

このような理由で、どこからアクセスするか、また利用する閲覧ソフトの種類に応じて選ぶことのできる 2 つのサイトを併存させて現在に及んでいる。

『スペイン語学関連文献目録』は dgindy に移設して以来、サーバ機の諸設定が自分で管理できるようになったため、早速、CGI 利用のインタフェースに改善した。検索キーワードはブラウザから入力された文字列を受け取り、サーバ側でデータベースを検索し、該当のデータを送り返すシステムである。また、既存のテーマ分類コードを再利用して、選択ボックスを WWW 画面に示し、利用者が選択したテーマのコードをキーワードで探

し出す方式を採用すれば、最も煩雑だった分類済みのデータファイルを用意する必要がなくなり、従来から設けていた主題別の論文一覧提示機能も損なわれないことがわかった。

最終的には、タイトル名、著者名、及び上述の内容主題を問い合わせられるような簡易な検索システムで十分と思われるので、このスクリプトをまず Perl で書いて、実験してみたところ、思っていたよりも高速で、学内からのアクセスだとほとんど時間待ちすることなく、迅速に検索結果が得られるので、専用サーチプログラムを作成することなく、直ちに、検索サービスを開始した。データの自動登録機能を付けるべきかどうかは迷った。利用者が次々にデータを追加してくれることはデータベースを最新状態に維持する上では、非常に好都合である。ファイルのアペンドを自動的に処理させるのは簡単であるが、一度書き込んだデータの修正はありがちなことで、それを考慮して不特定多数の人に自由に訂正できるようにするのは安全性の上で問題を生じる。そこで、新規登録をフォームで行うが、直接データベースに書き込まず、自動的に筆者へメールでそれを通知する間接的な処理法を採ることにした。このやり方は、それほど多数の追加登録が送られない現状では賢明な選択であったと思われる。すなわち、登録者がすでに登録済みかどうか確認しないで二重登録してしまうケースを未然に防げるのと、表記法がバラバラになりがちな「掲載誌名」やスペイン語の部分进行调整して統一できるという利点も大きいからである。

dgindy では、さらに新たなページとして、『Hispalink スペイン語版』を登場させた。厳密に言えば、『Plazuela Española』の西語バージョンという方が当たっている。全ページをスペイン語で提供するが、元データは、表記法の違いを除けば、『Plazuela Española』と『Hispalink』に共通である。これを開設した目的は、スペイン語にすでに親しんでいる中級・上級利用者は、分類タイトルや注釈程度のスペイン語を十分読めるであろうし、このページに入った時点でブラウザソフトの Document Encoding を Latin 1 に設定しまえば、海外のリンク先ページとこのガイドページの間を行き来するたびごとのコード系の切り替えが不要になり、この方が遥かに使いやすいのでは、と考えたためである。もちろん、海外のスペイン語圏の人々がネットサーフィンに利用してもいいわけであるが、やはり、インターネットに接続する非ネイティブのスペイン語学習者をユーザ層の中核になる

ことを想定にしたコンテンツ構成を維持したい。

関西スペイン語研究会とその研究機関誌『Lingüística Hispánica』のホームページは当初より海外のスペイン語研究者を対象にした広報ページで、全体がスペイン語で書かれている。ここには関西スペイン語研究会が主催してきた、＜スペイン語学研究セミナー＞ SELEK (Seminario de Lingüística Española de Kansai)の概要紹介と活動記録も含まれている。1978 年来の過去 18 号の雑誌バックナンバーの掲載論文タイトルと、その内容キーワード、投稿規定、既刊号を所蔵している海外図書館・研究機関などの詳しい情報を提供している。スペイン語学研究者というごく限られた利用者のためのページであるが、次の段階としては、今後出版予定の最新号の掲載論文をホームページ上で読めるように、また、既刊のデータは圧縮ファイルで ftp によっていつでもだれでもダウンロードできるようにしたい。既発表の論文を含めて、バックナンバーの記事を入手しにくい学術雑誌を、このような形で広く開放することは執筆者・読者の双方に歓迎されることになろう。実現は、技術的に問題はないのであるが、各論文の執筆者に電子化された統一形式で原稿を提供してもらえるかどうかにかかっている。

3. サイトの管理と維持

最初の WWW ページを開いてから 1 年数ヶ月が経過し、また新ホスト上に小規模な WWW サーバを運営して 1 年近くになったこの機会に、個人の力でサイトを維持する経験を振り返り、若干の考察と反省点を述べてみたい。

インターネットの WWW プロトコルによる情報発信について、真っ先に考えなければならない一般的な諸条件に関してはここでは触れない。たとえば、提供しようとする情報が、本当に、大学のサーバから WWW で発せられるに値する、WWW というメディアに適した、正確で信頼できる情報か、などを常に自問し続けることは重要である。少なくとも、このような意識をもちながら、データの公開に踏み切ったつもりであるが、以下ではより実地的なメンテナンス上の諸問題を取り上げながら、これらの点への関わりを忘れないようにしたい。

自分のほしい情報の在処が、そしてそのみが、一覧できるようなリン

ク集がいつも手元があれば、と思うのはすべてのサーファの願望であるが、これは永久にかなわぬ夢に終わってしまうだろう。自分で URL を整理してデータベース化しようと試みた人なら必ず経験するはずである、所在情報の短命さのためである。アカデミックな世界の専門情報の所在などの場合に、とくに顕著であるが、一度収集してまとめた URL 情報も半年立てば50%以上は無効になってしまう。情報提供元のサーバの変更、ディレクトリまたはファイル名の変更はめまぐるしく起こるだけでなく、サイトの名称が変わるケースすらある。

少数の特定サイトのみしか参照する必要のない人は別にして、一定分野の情報をフォローしたい場合に、各個人がこのようなデータベースを常にアップデートしていくのはかなりの負担を強いられるだろう。そこでリンク集を掲載したネットワーク上のガイドページがその代役を期待されることになる。

日々めまぐるしく変化する所在アドレスのチェックは、想像以上に困難で、骨の折れる作業であることを実感した。移転先があるのか、サイトの廃止なのか一時休止なのか、あるいは単なる回線混雑やサーバの事故なのかはしばしば見分けにくい。URL 変更を明示して、新たな先を指示したり、再リンクしてくれているページは一部分に限られているため、同じサーバ内の他ディレクトリー内をさまよったり、あるいはサーチエンジンを使って新住所を探し求めなければならないが、一件のアドレスを調べ直すのに相当な時間と根気を要するのは確かである。

すなわち、『Lingüística Hispánica』のような、それ自身のデータ供給者は一度ページを作成すれば、定期的な追加と気づいた修正以外に、それほどメンテナンスに手間がかからない。しかし、ハイパーリンク情報のガイドブックとしての完璧性を目指すことは達成不可能に近いほど高い目標で、提供し始めた情報に対してある程度の鮮度と速報性を保つだけでも予想外の労力を要することがわかった。追加されるべき新規サイトのチェックも欠かせない。加えて Web サイトの、そしてその各ページの内容を把握して、適切にカテゴリー化できるかどうか、情報の親切さと利用価値に大きく影響を与える。『Plazuela Española』、『Hispalink』には、「総合リンク案内」と「地域別ガイド」の別を設けている。前者のセクションでは、スペイン語圏全体の WWW ページに関連するものを扱うが、サーチエンジンだけ、

あるいはそれを主体にして、主題別、分野別の分類項目を第一義に分類して全地域を網羅する URL 情報を集めている。後者は、反対に全地域を国別・地方別にまず分割したリストあるいはこれとテーマ分類をも併せ持つサイトを収集している。このような分類法が使いやすく便利かどうかは問題があるが、適切な Web ページの種別を定めるのはなかなか大変である。問題のページを詳しく調査しなければならないという労力だけでなく、それぞれが特色を出そうとしてオリジナルな構成を目指しているという根本的な理由により、類別するのが容易でないためである。

内容の更新頻度は、当初、月に1度くらいで済むのではないかと考えていたが、これはまったく予想はずれだった。自分のページにリンクした URL の変更は、ほとんど毎日のように頻発するので、余裕があるならば、提供情報の内容の変化を察知した場合、即刻行わなければ、更新すべき残件がどんどん溜まっていくことがわかった。実際に接続可能かどうか、全 URL を毎日定期的に確認することは、専従者のいる営利事業としてならともかく、奉仕的余技としてサイトを運用する者にとっては到底不可能である。このことは、個人の力で良心的に管理でき得るガイドページの規模に自ずと制約があり、またその結果として、内容にもそれに応じた特色を出す工夫が求められることとなる。

4. 利用者の数と傾向

何らかのホームページを公開すれば、最も気がかりなのは、果たしてアクセスする人があるのか、どの程度の数なのかという点である。けれども、特定のページを見た訪問者の数や、どこから接続したかの正確な実態をつかむことは技術的に難しいとされている。

まず、サーバ管理者がアクセスログを公表しない場合、Web ページの開設者はこれに関する情報を入手できない。民間プロバイダの場合、多かれ少なかれ、各ページ毎のアクセス情報を公開するサービスを行っているようである。『Plazuela Española』を置いている京都インターネットワークの場合、「会員個人ページ一覧」(<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/>)で、タイトルと内容の簡単な紹介を兼ねて、“昨日”、“先週”、“先月”単位で集計した html ファイルに対するリクエスト集計をすべての個人ページ毎に公開しており、いつでもその時点のおよその状況をつかむことができる。ただ、そ

ここでは過去のデータ統計の累計を得ることはできない。95 年のオープンのときに比較すると、『Plazuela Española』のヒット数は徐々に増えてきていて、例えば、1997 年 2 月 9 日（日曜日）の数値は、それぞれ 106,513,2263 であった。日によってばらつきはあるものの、毎日 100 ページほどのアクセスである。

このプラバイダではアクセス・カウンタをホームページ内に付けられる CGI がサポートされているので、上記の玄関ページには訪問者を数えるカウンタも配置した。これにより、この表題メニューページを経由する人にもその数字が見えるようになっている。また、カウンタでは累積数字が表示されるので、アクセスする人の増加具合がそのままわかる点で参考にもなる。この数値は 6 つのセクションの各ページの接続要求を合計しているのではなく、玄関口のタイトルページを見た人の数のみを集計している。したがって、「スペインの新聞」、あるいは「ラテンアメリカの新聞」ページなどに直行するユーザの数などは、この数字には含まれない。1996 年 1 月 13 日以降の合計訪問者は、2 月 9 日の累計で 7,502 となっている。最近の訪問者の数は安定していて、一日に 20 - 30 である。

このページのアクセス・カウンタに限らず、サーバのログに残る接続件数は実際に該当ページが見られた頻度と一致しないことは言うまでもない。まず、ブラウザにキャッシュを有効にしているユーザが大半であろうから、その有効期限内にアクセスした同一ページへのアクセスは記録に残らない。また、プロバイダ経由や Firewall の内部からアクセスするケースも少なくなく、やはり Gateway のプロキシーサーバーに残るキャッシュが生きている範囲では異なる多数のサーファの接続も 1 回にみなされるので、実際の利用頻度とずれが生じることになる。

dgindy 上のホームページについては、アクセスログが自身で直接管理できるため接続状況の動向が的確に把握できるようになった。『Hispalink』及びそのスペイン語版ページのタイトルページには SSI (Server Side Include) による簡単な shell script を用意し、表題ページの元ファイルでこれを読み出すことで、延べ訪問者数を記録・表示しているが、これらも両者を合算した表紙ページの転送請求数のみをカウントした結果である。

本学サーバ post01.osaka-gaidai.ac.jp 上の教官ページには CGI の利用が許可されていないので、直接、カウンタプログラムを導入できないため、

dgindy にフリーソフトのアクセス・カウンタプログラムをインストールして、参考までに、個人ホームページ欄の訪問者数を昨年 6 月から数え始めた。教官個人ページには、筆者の場合、実際のデータや情報が何も置かれておらず、前述の『Plazuela Española』, 『Hispalink』, 『スペイン語学データベース』などへのハイパーリンクが張られているだけである。そのため、ここを再訪する人はほとんどないか非常に少数のはずで、この数字の意味は、初めて訪れる人の数のみを示していると解釈される点で興味深い。因みに、http://www.osaka-gaidai.ac.jp/~deguchi/deguchi_hp.html にアクセスする数は一日に数人で、1996.6.13 - 1997.2.9 の期間で 843 を示している。

なお、dgindy に置かれた各ソースファイルに対する詳しいアクセス統計とその分析については出口（予定）を参照されたい。

アクセスする人々にこれらのページが実際に役立っているのか、またどのような要望を懐いているかは、WWW の利点でもある匿名性のゆえに、漠然としていて見当が付きにくい。しかし、受け取ったメールを通じての未知の利用者からの反響では、意外にも、パソコン上でスペイン語を利用する方法に関する技術的な質問が多いのに驚かされた。WWW ページを見る人は当然ネットワークへの接続を果たしているものと想像していたが、必ずしもそうでなく、会社や友人の利用環境で、たまたま、ページの存在を知って、自身でも利用したいが戸惑っているといった状況の人が少なくないようである。また、スペイン語のスペルチェッカーや電子辞典、html 文書の作り方に関する質問も多い。提供できる情報を持っている範囲でこれらのメールには個別に返事を出したが、このような質問者がさらに急増するようであれば、個々に対応するのが困難になることも懸念される。

パソコン環境でのスペイン語利用の技術側面に関しては、BBS でのディスカッション・グループがかなりの歴史をもっており、情報やデータ量も豊富である。しかし、BBS に所属しないで、接続の簡単な WWW ページを閲覧しながら、この種の問題を解決したり相談したいと考える層が拡大していくかも知れない。そのため、日常、日本語とスペイン語（や英語以外の欧文）をコンピュータで扱う際の、さまざまな情報を交換しあい、初心者に必要な document やガイダンスが与えられるようなホームページや forum または ニュースグループが運営されるべき時期に来ているのではないかという印象を深めている。

5. 結び

スペイン語学習者および教育・研究に携わる人々の総数は推計すらできないが、全世界で膨大な数に達することは間違いない。その中でインターネット利用者は今後ますます増加しつづけると思われるが、その規模に比して、この分野の情報源を検索したり、案内するホームページの絶対数はまだまだわずかであり、内容の多様性も充実度も不十分であると言わざるを得ない。リンク集を提供する同様なサイトが、あちらこちらでさらに増えても、なおそれでも不足するほどであろう。しかし、今後より大きな期待をかけられるのは、さらに細分化された、小さな専門領域を得意とする Web Navigator がいくつも増殖していくことである。例えば、スペイン語入門と中級程度の学習者に対する練習問題のみの WWW や gopher 情報を網羅的にカバーするページが現れれば、この分野はそのサイトにゆだねることができる。守備範囲を狭めれば内容を常に最新に維持しやすく、新データの利用可能性の察知もより確実に行えるはずである。このようなターゲットを絞った情報の拠点を作り出すことは個人の力で可能であり、それを多数のネットワーカーが分担して発信することにより、情報の享受者であるとともに、提供者の一側面を担うという実践が一般化することを願っている。

参考文献

- 出口厚実 (1995): 「PC-UNIX でインターネットへの近道—Linux ユーザの輪を広げよう—」—大阪外国語大学での情報処理機器・学内 LAN の研究 (平成 6 年度教育研究学内特別研究成果報告書), pp.50-57
- (1996): 「あなたのパソコンをWWWサーバに—無数の情報発信局を作るための準備—」—大阪外国語大学での情報処理教育・インターネットの有効利用の研究 (平成 7 年度教育研究学内特別経費プロジェクト研究成果報告書), pp.23-30
- (予定): 「小規模 WWW サーバの利用実態について」

(1997.2.20)